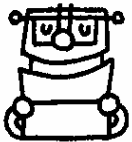


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
人と動物の体 / 理解シート

## きずから出た血が、かたまってしまうのは、なぜなの



血液の中には、血管がやぶれて血が外に出たとき、血をかためるはたらきをするものがあるからさ。

人間の体内では、心臓しんぞうがいつも休みなく動いて血液を全身に送っているため、どこかをけがすると、どんどん血が流れ出してきます。また、きず口から悪い細菌さいきんが体内に入ってきて、病気になることもあります。これらのことを防ぐため、血液の中には、血をかためて、やぶれた血管にふたをするしくみがそなわっています。

今わかっているだけでも、血液の中には、13種類もの血をかためるものがふくまれている、血管がやぶれると、これらが次々はたらい血をかためるものをつくり出していくのです。この13種類のうちの一つでもかけていると、血はかたまりません。血友病けつゆうびょうという血がかたまらない病気は、この13種類のうちの、あるものが不足しているために起こります。

### 血をかためるはたらきは、血小板から始まる

血液をつくっているおもな成分は、つぶになっている赤血球、白血球、血小板と、液体えきたいの血しょうです。この中で、血小板はとてもこわれやすく、血管がやぶれて血液が血管の外に出るようなときには、そのショックでこわれてしまいます。そして、血小板の中に入っているものが、血しょうなどと混じり合うと、糸のようなものがつきつきとできて、それがからみあってかたまり、血管をふさぐのです。やがて、これはかさぶたになり、きず口がなおってくると、自然にとれてしまいます。

赤血球は、全身に酸素を運ぶ役目をし、白血球は、体内に細菌などが入ってくると、細菌を食べてしまう役目をします。

けがしたときは、心臓に近い部分の血管をおさえると、血が止まりやすいんだよ。

